

生まれたて こちよう 胡蝶のごとき 豆の花

なれ なれ 汝との恋ぞ み 実を結べかし

令和五年四月二十一日

日本幻想小説家クラブ会員 大中臣正比呂



藤は松に身を巻きつかせて花を咲かせる。長唄「ふじむすめ藤娘」の一節にある通りである。

筆者のプランター内では、豆は横のジャガイモの茎に蔓を絡めて、つる節操はない。

古来、日本人には自然を観察して人の心根を確認する余裕があったのだ。